北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

創刊のことば

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-01-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉見, 孝夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7139

創刊のことば

吉見孝夫

ここに今、私たちの雑誌が生まれた。題して『札幌国語研究』という。

教員には大学の紀要がある。北海道教育大学五分校国語科教員で組織する語学文学会は『語学文学』という機関誌をもつ。それ以外にも外部の学術誌がある。研究成果を公表する場は十分に確保されている。しかし、学術論文の形式を離れてもっと自由な立場で筆を執ろうとすると、どこに発表するか途方に暮れることがある。

教員だけではない。書きたいが発表の手立てを欠いている人々が私たちの周囲に少なからずいる。学生の論文の中には活字にする価値をもつものも時にあるが、それはしばしば埋もれて日の目を見ないままとなってしまう。それに日の光を当てるのは、教員の義務でもある。大学院生の論文を（要旨ではなく）公表する場も保証されていない。それを保証するのは、指導する立場の者の責任でもある。孜々として研究を積みながら、適切な発表の場を得ていない卒業生もいる。その場を提供するのは、送り出した側のつとめでもあろう。

札幌校国語科自前の雑誌の必要性はどの教員も感じてはいた。いつか自分たちの機関誌をと願いはしたけれど、誰も動こうとはしなかった。願望に形を与えるには、過去の惰性とは無縁の人を俟たねばならなかったのである。九四年に吉原英夫氏が赴任して、ようやく私たちはその人を得た。この雑誌が世に出たのは全く吉原氏の力による。

ここに創刊に当たっての抱負やら将来への展望やらを述べるのは、敢えて控えておこう。うれしさの余り、大風呂敷や大言壮語が口をついて出てしまいそうだから。大事なのは、高らかに宣言することではなく、小さくとも確実な一歩を踏み出すことである。

このささやかな雑誌がどう成長するかはわからない。おそらく創刊に至った経過などは、いずれ忘れ去られるだろうし、それで一向にかまわない。だが、誕生の背後に一人の情熱と献身があったことだけは記憶にとどめておきたい。